

Model 3300  
ステレオ  
コントロール コンソール

Handbook of Instructions

# はしがき

貴方の モデル 3300 ステレオ コントロール コンソールから、最大の性能と喜びを引き出すために、本書の指示を充分に検討してください。モデル 3300 の取付けと操作は複雑ではありませんが、同モデルの数多くの操作特徴によってもたらされる融通性は、多少時間をかけてコントロール(制御器)と接続器についてご研究下さい。

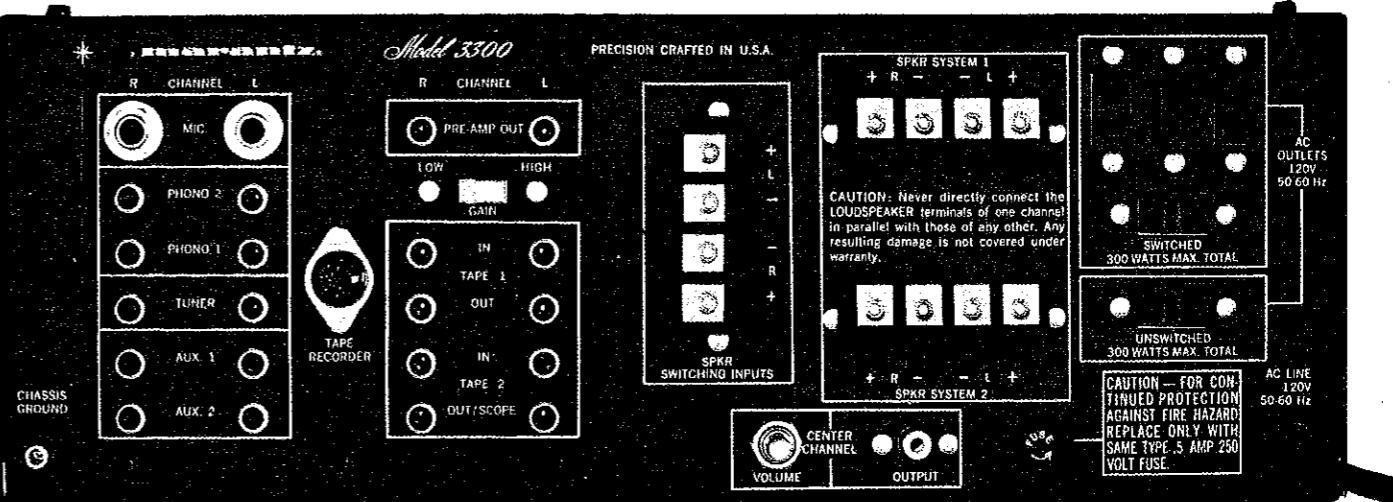
便宜上、このハンドブックは 2 部に分かれています。第 1 部は取付け方法と操作方法を簡単に、専門的な説明はぬきにして説明しています。第 2 部はモデル 3300 の特徴をもっと詳細に説明しています。これは“内部はどうなっているのか”という疑問に答え、特別な用途にモデル 3300 を使う場合に役立つよう書かれたものです。尚、詳細な技術仕様も第 2 部に含まれています。

モデル 3300 の多くのコントロール、接続装置、及び調整器を早く識別できるようにするために、このマニュアルでは、これらのものに関するすべての用語は、ゴシック体〔太字体〕で印刷されています。これらすべてのマーキングのスペル(綴字)と略字は本機の前面と背面両パネルの文字と全く同じに表示されています。

荷造材料〔カートン箱、詰物、クッション等〕は、すべて保存して置くことを、おすすめします。これらの荷造材料は万一、モデル 3300 を輸送又は、運搬する場合が生じた時、破損を予防するのに重宝です。本機と共に包装された付属キット封筒は、誤って捨てたり紛失したりしないよう注意して下さい。本機を注意深く検査し、輸送中に受けた破損の形跡があるか否かをお調べ下さい。本機は包装前に厳重な品質検査とテストを受けたので、工場から出荷した時は無傷であり、作動状態は完璧です。

本機が、U.S.A. マランツ社より貴方宛直送され、しかも破損を発見した場合は、遅滞なく運送会社に急報して下さい。運搬中の破損に対し運送業者にクレームを起すことのできるのは、荷受入たる貴方だけです。但し、マランツ社は、この場合貴方と一致協力します。カートン箱は運送業者の検査を受けるため破損の証拠物件として、とっておいて下さい。もしも直接マランツ・ディーラーから本機を受け取った場合は、それをディーラーの許に返品して調整を受けて下さい。

マランツの 3 ケ年黄金保証を受ける資格をとるため保証登録カードを作成の上、至急それを MARANTZ FAR EAST 宛郵送して下さい。このステレオ コントロール コンソールの貴方の所有権と貴方宛納品日については、貴方のディーラーから正式に届出済ですが、カートン箱の中に包装されている登録カードを至急返送されないと貴方の品質保証は効力がなくなります。



第 1 図 背面パネルの接続方法と調整

## 第 1 部

### 使用前の準備

#### キャビネットの取付方法

マランツ、モデル 3300 ステレオ コントロール コンソールは、家具式キャビネットや特別仕様により作られたパネルの中に取付けることができるし、或はラック又はテーブル上面の上にのせて使用することも出来ます。美しいオイル仕上のウォールナット キャビネット〔モデル WC-2A〕を貴方のディーラーに発注されて、組込む事も出来ます。シャシーの底部から、プラスチック製の足を取り外し、前面から、キャビネットの中へコンソールを滑り込ませます。付属キットに付いている金具を使って、本機をキャビネットの中に固定します。本機をキャビネットの底に固定させるには、4 個の青銅色の木ねじを使います。特別仕様による取付けを行なう場合は、“特別仕様による取付方法”に関する指示を、お読み下さい。

#### 信号接続

モデル 3300 に対するすべての信号接続は、シールド付 オーディオ ケーブルを用いて行います。但し、スピーカー接続器は、貴方のパワー・アンプ用に推薦されているタイプのものとすべきです。本機には、3 フィートの オーディオ ケーブル 2 本が一緒に支給されています。〔付属キット封筒の中に入っている〕。これ以上の長さが欲しい場合は、適切な標準ケーブルが貴方のディーラーから発売されているものをご使用下さい。

2 ページの第 1 図は、背面パネルの入出力ジャックの所在を示しています。これらのジャックは“永久”

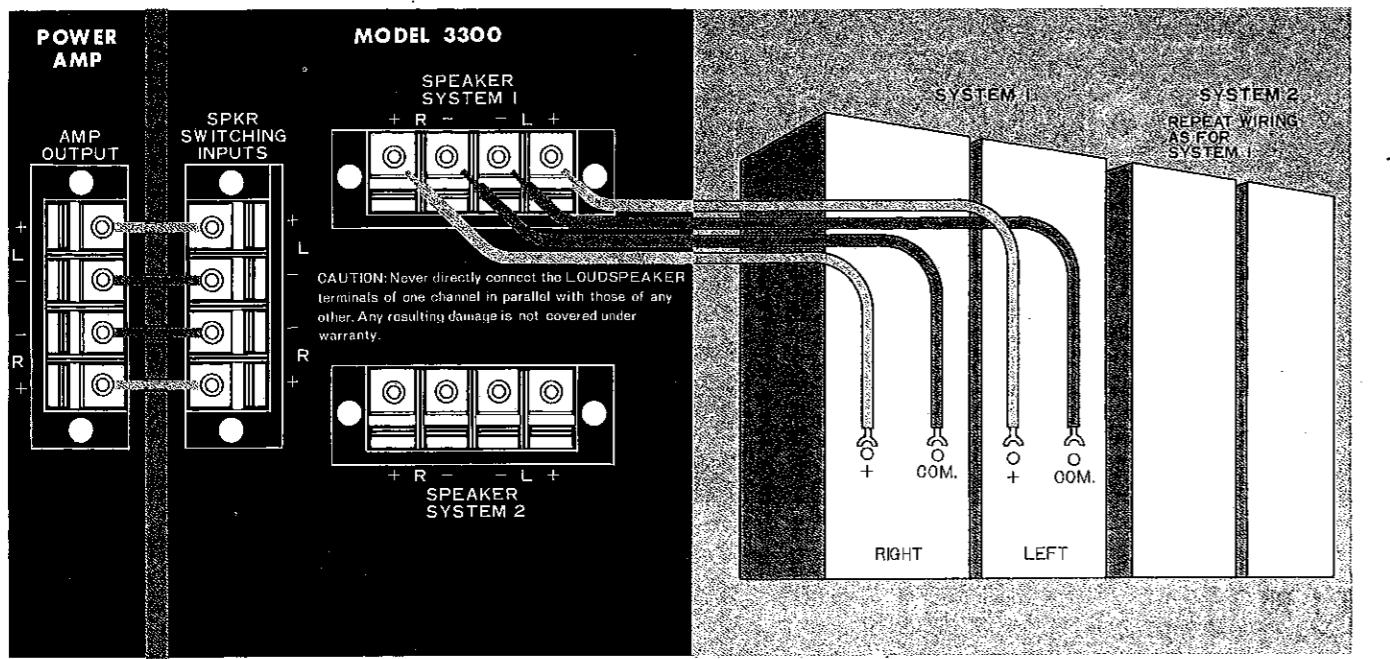
接続用です。前面パネル コントロールとジャックの使用方法については後述致します。

L チャンネルは左のオーディオ チャンネルに対応し、R チャンネルは右のオーディオ チャンネルに対応します。混同をさけるため、一度に一本づつケーブルを、モデル 3300 と貴方のシステムの他のコンポーネントとの間に接続するようおすすめします。こうすれば、チャンネル、信号源及び、行先の不適正な接続は避けることが出来ます。

MIC 入力 ジャック：これらのジャックは、不平衡な低レベル [-30 ~ -60dBm 出力] のマイクと併用するためです。マイク プリアンプの入力 インピーダンスは 50,000 オームになっています。

PHONO 1 と PHONO 2：これらのジャックは標準フォノ カートリッジ [47,000 オーム 抵抗負荷を必要とする] と併用するようになっています。

レコードをかけている時、ハム音が聞える場合は、貴方のレコードプレーヤー又は接続器のアース、或はシールドが不充分な証拠です。ターンテーブル又は、レコード チェンジャー フレームから 出ている別個のアースワイヤを モデル 3300 のシャシー アース端子に接続します。もしも、トーン アームが木製パネルの上に組込まれていたり、或は、フレームから絶縁されている場合は、短かい リード線を使ってアームのマウントベースをアースワイヤに接続して下さい。アームの中の 2 ペアの信号ワイヤが単一の全面シールドを有している場合は、そのシールドをアースワイヤに接続します。二本のフォノ 接続ケーブルとアースワイヤは密着させて、3 本ワイヤ〔共通アース〕システムは、こうして “アースループ” を最少限にすることが必要です。もしも、過剰なフォノ ハム音が存在している場合は、貴方の フォノ カートリッジは、二本の “共通” ワイヤを接続するクリップを有していることがあります



第2図 スピーカーシステムの接続

で、それを取外して下さい。

注：いづれか一方のフォノ ジャックが未使用のままになっている場合、ショート プラグを両ジャックの中に取付けたままにしておきます。これらの入力は非常に高い利得と高い入力インピーダンスをもっていますので、セレクター スイッチを一瞬、未使用 フォノ位置に廻した時、低周波ノイズが外部から入るのを防止します。

**TUNER ジャック**：これらの高レベル ジャックは、ステレオ [又はモノ] チューナーをモデル3300に接続するのに使用します。

ステレオ [マルチ] FMチューナー受信を行うには、下記の通りの手順をふまなければなりません。チューナーのAとB [左と右] の出力ジャックとモデル3300のLチャンネルとRチャンネルのチューナージャックとの間に、1ペアの オーディオ ケーブルを接続します。“セレクター スイッチ”を“チューナー”にセットし、“MODE”スイッチを“STEREO”にセットします。

モノ FM、又は AM チューナーの場合は、下記の通りの手順で行います。一方のケーブルをLチャンネルか又はRチャンネルいづれかの チューナージャックに接続します。セレクター スイッチを チューナーにセットし、モードスイッチを L+R にセットします。

**AUX 1 及び AUX 2 ジャック**：これらの高レベル ジャックは、各種の プログラム ソースをモデル3300 [プリアンプ付 テープ プレーヤー、フ

オノ カートリッジ (RIAA-等化、高レベル出力を備えたもの) 又は、追加チューナー、或はレシーバー等] に接続するために付いて居ります。

**TAPE 1 IN ジャック**：テープレコーダー (プリアンプ内蔵) 出力をこれらのジャックに接続すると、テープレコーダーからの信号は、レコーダーを再生モードにセットして、TAPE 1 モニター スイッチを押した際、テープレコーダーからの信号が再生できます。

**TAPE 1 OUT ジャック**：SELECTOR スイッチ、又は TAPE MONITOR スイッチによって選ばれた信号は、このペアのジャックのところから取り出し、録音のため貴方のテープレコーダーに通すことができます。

選ばれた入力信号は、TAPE 1 OUT ジャックにおいて利用することができます。但し、TAPE 1、と TAPE 2、両モニター スイッチが 押されている場合は、TAPE 2 IN ジャック [又は、TAPE 1 IN ジャック] からの信号は、TAPE 1 OUT ジャックにおいて利用することになります。

**TAPE RECORDER ジャック**：背面パネルのDINコネクター (5ピンの TAPE RECORDER ジャック) を使うと、ヨーロッパタイプの5本ワイヤテープレコーダー ケーブルを 同様の装備のテープレコーダーと併用することができます。このジャックは、TAPE 1 IN ジャックと、TAPE 1 OUT ジャックと並列に接続されており、プラグの中にある極性化ピンは、適正な位相を確立しています。

**TAPE 2 IN ジャック**：テープレコーダーの出力を、これらのジャックに接続し、レコーダーを再生モードになるようセットしますと、TAPE 2 モニター スイッチを押した時、テープレコーダーからの信号がシステムを通して再生することができます。

**TAPE 2 OUT / SCOPE ジャック**：セレクター スイッチによって選ばれた信号は、このペアのジャックにおいて利用することができます、又録音のため、貴方のテープレコーダーに入れることができます。

TAPE 2 OUT / SCOPE ジャックはオシロスコープを使って、ソース材料の位相、バランス及び分離度をテストする場合も使用することができます。尚 マランツ モデル10B、20、20B 又は、120 のステレオ チューナーの 所有者はチューナーに組込まれたオシロスコープを利用することができます。この利用方法はチューナーの外部スコープ 入力ジャックを モデル3300の TAPE 2 OUT / SCOPE ジャックに接続すれば良いのです。

**DUBBING OUT**：このジャックは、背面パネルの TAPE 2 OUT / SCOPE ジャックと並列に内部接続されています。それ故、背面パネルのジャックにおいて利用できる信号は、同時に前面パネルにおいても利用できます。標準 3導線 フォノ プラグを使用して、このジャックにテープレコーダーの録音入力を接続することも可能です。

注：3導体 フォノ プラグの配線方法は、左チャンネルを尖端へ、右チャンネルをリングへ、アースは本体へ配線すること。

**PRE-AMP OUT ジャック**：これらのジャックは、モデル3300 プリアンプ回路の出力を背面パネルに伝え、貴方のパワー アンプ 入力 ジャックに接続するものです。

**SPKR SWITCHING INPUTS**：背面右側にある SPKR SWITCHING INPUTS, SPKR SYSTEM 1 及び、SPKR SYSTEM 2 の各端子は、パワー アンプと 2つのスピーカー システムをモデル3300に接続する場合を考慮に入れてています。1ペアだけのスピーカーを使用する時は同スピーカーを、SPKR SYSTEM 1 端子に接続します。SPKR SYSTEM 2 端子は、第2ペアのスピーカーを離れた場所に接続するためのものです。

注：スピーカー インピーダンスは、パワーアンプの性能によって決まり、モデル3300によって影響を受けることはありません。

注意事項：モデル3300 SPKR SWITCHING INPUTS 端子ストリップのパワー取扱能力は、1チャ

ンネルに付き150W RMSに限定されています。

組込電源を有するスピーカー、例えば静電スピーカーに、モデル3300を接続するときは注意を要します。

これらの装置の“COMMON”スピーカー接続端子は電源を通してコンデンサーによって連結されている場合があり、モデル3300の (一) 端子が、スピーカー システムの“COMMON”端子に接続されているか否か確認して下さい。[ 3 ページ第2図参照] これらの接続を行う場合は、通常18ゲージ、2芯コード [ジップコード] を使用してもかまいません。推奨されるワイヤ サイズについては、パワーアンプ ハンドブックを参照して下さい。

ステレオ操作のため、2個のスピーカーを接続する場合大切なことは、正しい相対位相 [極性] を確認することです。これを最も間違ひなく行う方法は、各ワイヤに識別用符号を付ければよいわけで、1ペアごとに1本づつワイヤの両端に、結び目或はテープ等で符号を付けることです。こうすれば符号のついたワイヤは、各チャンネル内の同一接続用に使用することができます。例えば、各ペアの符号付きワイヤは各スピーカーの“COMMON”(共通) 端子及び各アンプ チャンネルの (一) 端子に接続することができます。こうしてから、各ペアの符号なしのワイヤは、残りのスピーカー端子と各アンプ チャンネルの残りの端子に接続されます。この手順をふめば、同一スピーカーの正しい位相を確立することができます。

注：標準 ジップ コードを綿密に調べてみると、絶縁体に何らかの形式の符号 [一方の縁が隆起していること、或は溝が切ってある] が付いていることがあります。或は、一方のワイヤには錫が被せてあって他方には被せてないこともあります。

注意事項：一方のチャンネルのスピーカー端子を他方のチャンネルのスピーカー端子と並列に直結してはなりません。こうして発生した破損は品質保証書では保証致しかねます。

**PHONES**：このジャックはチャンネルL及びR、SPKR SWITCHING INPUTS 端子に内部接続されています。PHONES ジャックは、プロ用向きステレオ ヘッドホーンと併用するよう設計されています。“Y”コネクターを使用して、2セットのヘッドホーンを使用しても出来ます。但し、2セットのヘッドホーンを並列接続すると、出力レベルのロスが発生します。

**CENTER CHANNEL OUTPUT ジャック**：このジャックは、変型センター チャンネル システムと併用してもよく、或は遠隔 モノ スピーカーの用途に使用してもよいのです。LチャンネルとRチャンネルの SPKR SWITCHING INPUTS 端子からの出力信号は、抵抗器のネットワークにより集

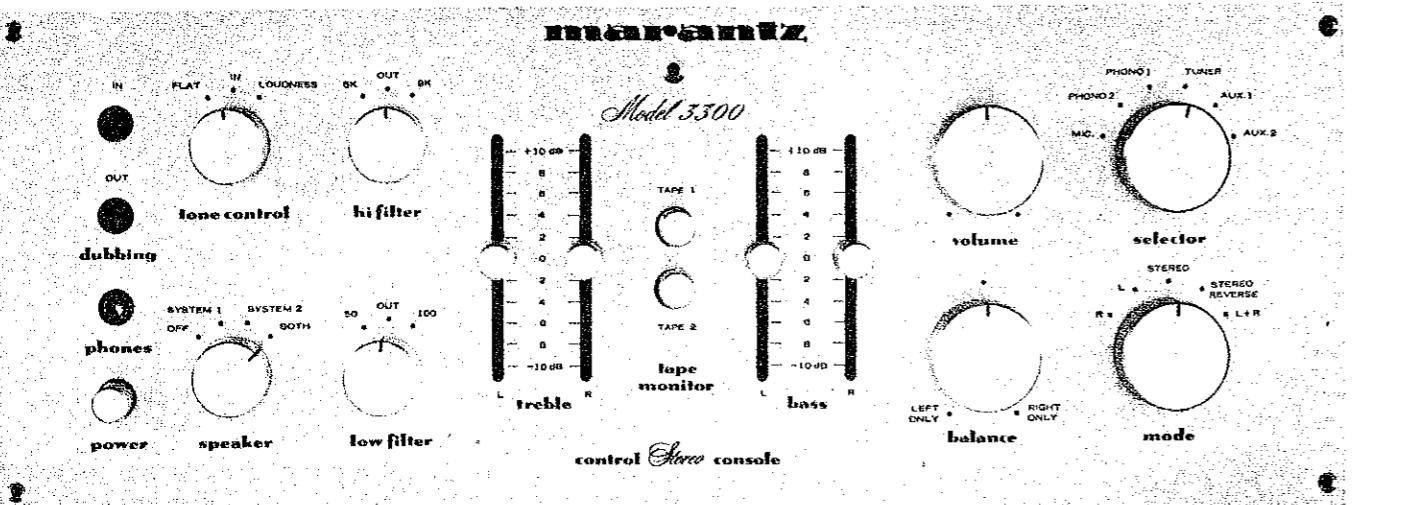
約されて、L+R [左+右] モノ信号を形成します。このモノ信号は、追加外部パワーアンプに入れることも出来ます。

**CHASSIS GROUND**: このターミナルは、モデル3300と他の関連コンポーネントとの間のアースループを除去するのに便利な“アース”地点を提供するものです。

#### パワー接続

**ラインコード**: 前面パネルのパワー スイッチを、OFFにし、100V、50~60Hz ACのみを供給するコ

ンセントに ラインコードを挿し込んで使用します。  
**内蔵コンセント、アウトレット**: 背面パネル5個のAC アウトレットは、貴方のシステムの関連コンポーネント 例:パワーアンプ、チューナー、テープレコーダー、レコード プレーヤー等、AC100Vを与えるために付いています。これらの内、上部の4個は、パワー スイッチによって コントロールされません。このアウトレットは、自己の ON、OFF スイッチを持つレコード チェンジャー等に ご使用下さい。



第3図 前面パネルのコントロール及びジャック

## 操作

**簡易操作方法**: 初めて モデル3300 ステレオ コントロール コンソールを操作する場合は、5ページの第3図を使って、下記の簡単な指示を守って下さい。後日、残りのコントロールと調整器の使用方法を知れば、本機の多用性をフルに利用することができます。

**第1段階**: VOLUME コントロールを左一杯迄 [時計と逆方向に] 回し、BALANCE コントロールを中位置にセットします。

**第2段階**: MODE スイッチを STEREO位置にセッ トします。

**第3段階**: 両方の TAPE MONITOR スイッチを、

OUT位置にセットします。

**第4段階**: 両ペアの TREBLE と BASS コントロール を、中央位置 (零dB) にセットします。

**第5段階**: POWER スイッチを押しますと、パネルの中央上部の青色の表示ランプが点灯します。

**第6段階**: SELECTOR スイッチを所定の位置に、廻して希望の プログラム ソースを選んで下さい。但し、希望の プログラム ソースが録音済テープである場合は、所定の TAPE MONITOR スイッチを押します。

**第7段階**: VOLUME コントロールを調整して、快適な音量レベルにして下さい。

前面パネル コントロール

**SELECTOR スイッチ**: この 6 ポジション スイッチは、聴取又は、録音すべき プログラム ソースを選びます。

MIC、PHONO 2、PHONO 1、TUNER、AUX 1、又は、AUX 2 と選択できます。PHONO 1 又は、PHONO 2 の位置では、正確なRIAA等化が導入されています。

**MODE スイッチ**: この 5 ポジション スイッチの通常のセット位置は、STEREO位置です。特殊な場合に、これは他の位置を使う方が役立つことがあります。

STEREO REVERSE 位置では、L+R [左と右] のチャンネル入力が入れ替ります。STEREO REVERSE 位置を使用すると、ステレオ プログラムにおける楽器の左右の外見上の配置が逆転します。STEREO 位置をとるか、STEREO REVERSE 位置をとるかは聴取の好みの問題でお好みに合せて下さい。

**L と R**: L 位置では、L チャンネル ソース 材料が L チャンネル出力と R チャンネル出力と同時に伝えられます。R 位置では、R チャンネル ソース 材料が L チャンネル出力と R チャンネル出力と同時に伝えられます。これらの追加切替位置は、ソース 材料のステレオ 分離度を評価するのに特に役立ちます。

**L+R**: この位置では入力チャンネルは混合されその混合体[ステレオ入力信号がモノ状になっているもの]はプリアンプの L と R 両チャンネルから出されます。この位置は ステレオ カートリッジを使って モノレコードを再生するのに特に役立ちます。

**VOLUME コントロール**: 両出力チャンネルのレベルは、すべての通常セッティングにおいて、ステレオ バランスを 2 dB 以内に維持しています。

VOLUME コントロールによって、テープ アウト ジャックにおける信号レベルは影響を受けることはありません。

**BALANCE コントロール**: 旧式のステレオ録音、及び若干の現行ステレオ放送の際、時々出合うプログラムの不均衡を修正する必要がある場合にこのコントロールはいずれかの出力チャンネルのレベルを変えることが出来ます。このコントロールは中央位置より離してゆけば、一方のチャンネルのレベルを維持しつつ他方の出力チャンネルのレベルを減少させるようになっています。

**BAS コントロールと TREBLE コントロール**: これらのコントロールは、プログラム信号の音質バランスを変え、個人の好みに合うようにする為です。各コントロールは別々になっていますので、アンバランスの室内音響又は、ステレオ プログラム 材料のチャンネル相互間の音質不均衡を補正することができます。左手のスライディング コントロールは、

左オーディオ チャンネルの レスポンスを調整し、右手コントロールは、右オーディオ チャンネルを調整するようになっています。

**TAPE 1 と TAPE 2 [テープモニター] スイッチ**: 両スイッチを正常 (アウト) 位置においておけば、システムを通して再生されているプログラム ソース信号は、SELECTOR スイッチによって決められます。またこの信号は DUBBING OUT, TAPE 1 OUT, TAPE 2 OUT / SCOPE ジャック、及び TAPE RECORDER コネクターにおいても利用することができます。いずれかの TAPE MONITOR スイッチを押すと、SELECTOR スイッチによって決められた プログラム ソース信号は、すべての 録音アウト ジャックにおいて利用できる状態のままになっていますので、所定のテープレコーダーからの信号がシステムを通して再生されます。

7ページの第1表では、TAPE MONITOR スイッチを色々組合せて利用できるすべての機能について説明しています。

**HI FILTER スイッチ**: この 3 ポジション スイッチは高周波ノイズ 例: 録音の悪かったテープ、又は使い古しのレコードの再生に伴うノイズ等を大巾に減らすのに使うことができます。9K ポジションは テープのヒス、又は質の悪い或は、取扱不注意なレコードからのスクランチノイズを抑圧するのに効果があります。5K ポジションは古いシェラック 78回転レコードをかけるときに使用することができます。モデル3300とAMチューナーを併用している場合、10KHzのビート音を抑圧するには 5K ポジションが有効です。OUT ポジションでは、高周波フィルターは回路から接続を切り離されます。

**LOW FILTER スイッチ**: この 3 ポジション スイッチはターン: テープの回転ノイズ、低周波ノイズ、又はブーンという過度なバスを大巾に減らすのに使用することができます。明らかに、フィルターを使用するといやなノイズも少くなりますが、また希望の低い音も少くなってしまいますので、100 ポジションはやっかいなプログラム ソースを取扱う時の“最後の手段”としてのみ使用して下さい。50 ポジションを使用するときのバスの損失は大部分の音楽材料の場合、気付かれずに済みます。OUT ポジションでは、低周波フィルターは回路から接続を切り離されます。

**TONE CONTROL スイッチ**: この 3 ポジション スイッチは、FLAT にセットされると、トーン コントロールから除外されます。IN にセットすると、オーディオ信号はトーン アンプの中を通り、BASS コントロールと TREBLE コントロールにより変えることができます。LOUDNESS の位置におくと、モデル3300の周波数レスポンス曲線は変化して、

TAPE 1 MONITOR	TAPE 2 MONITOR	SELECTED INPUT SIGNAL TO:	TAPE 1 SIGNAL OR RECORDER SIGNAL TO:	TAPE 2 IN SIGNAL OR DUBBING SIGNAL TO:
Out	Out	Preamp Tape 1 Out, Recorder Out Tape 2 Out, Dubbing Out	-	-
In	Out	Tape 1 Out, Recorder Out Tape 2 Out, Dubbing Out	Preamp	-
Out	In	Tape 1 Out, Recorder Out Tape 2 Out, Dubbing Out	-	Preamp
In	In	Tape 2 Out, Dubbing Out	Preamp	TAPE 1 Out, Recorder Out

第1表 モニタースイッチ操作

ほぼFletcher-Munson曲線に近似します。こうして音楽上、見かけ上の音質は、低出力レベルにおいて等化されます。

**SPEAKER スイッチ : SPKR SWITCHING**  
INPUTS端子に加えられる信号は、SPEAKERスイッチにより所定のSPKR SYSTEM端子へと中継されます。PHONESジャックは SPEAKERスイッチの影響を受けません。

**POWER スイッチ :**このスイッチを押すと、ACパワーがモデル3300と内蔵コンセントアットレットに伝ります。再度押すと、ACパワーは切れます。

**背面パネル コントロール**

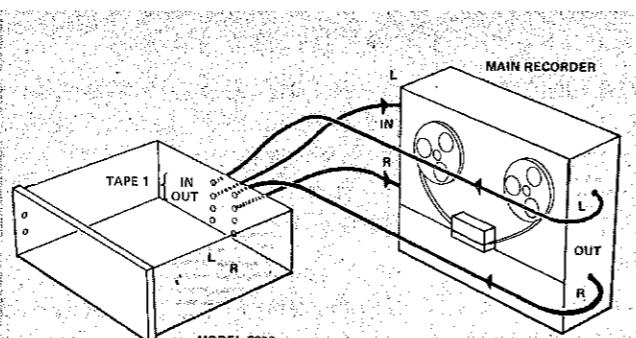
**GAIN スイッチ :** GAINスイッチは通常、LOW位置において使用されます。このゼッティング方法では、最低ノイズで最大の忠実度が得られます。HIGH位置を使用するのは、貴方が VOLUMEコントロールを異常に高い位置にセットするだけの信号ソースを必要とする場合に限ります。

**CENTER CHANNEL VOLUME コントロール :** このコントロールは、CENTER CHANNEL OUTPUTジャックにおいて利用できる出力信号レベルを調整する為のものです。

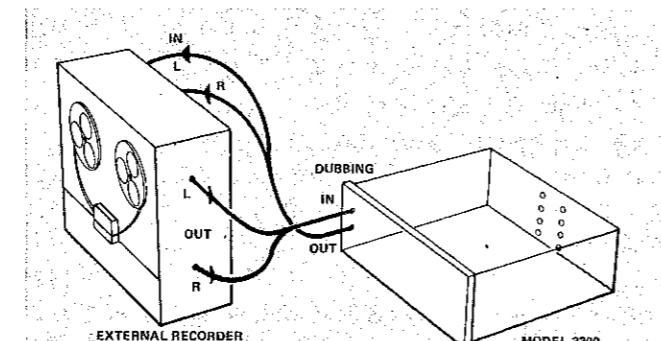
テープレコーダーを貴方のモデル3300と併用することに関する幾つかのヒント。

モデル3300はテープレコーダー用として4つの装置—TAPE 1、TAPE 2、TAPE RECORDER及びDUBBING—を備えています。以下の説明の中で混乱を起さないようにするために、"テープモニター"とは、テープレコーダーが別々の録音ヘッドと再生ヘッド、及び別々の録音プリアンプと再生プリアンプとを備えているものを条件とします。この

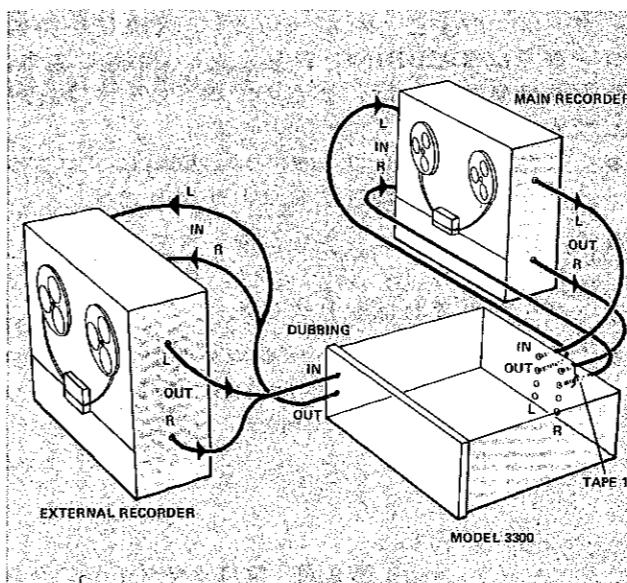
説明を更に簡略化するため、TAPE 1のTAPE RECORDER装置に接続されたレコーダーを"主"レコーダーと呼びます。TAPE 2装置に接続されたレコーダーは"副"レコーダーと呼びます。前面パネルのDUBBING装置に接続されたレコーダーは"外部"レコーダーと呼びます。尚、TAPE 1とTAPE RECORDERは並列に内部接続され、一度で一つの装置だけを使用すべきです。



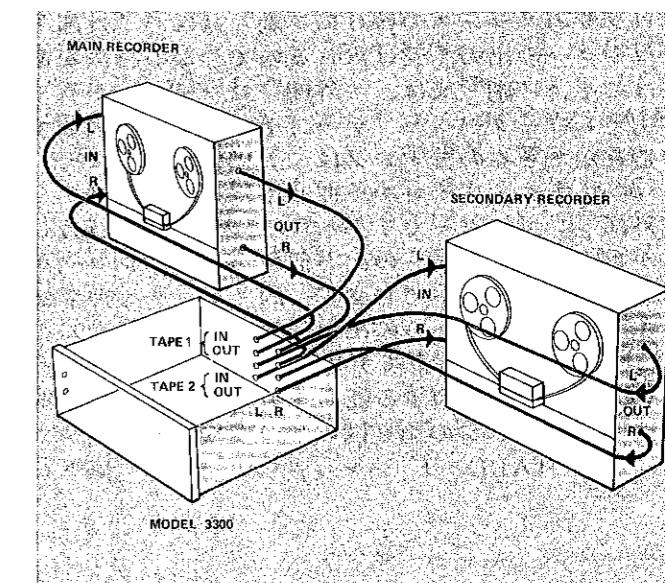
第4図 主レコーダーの接続方法



第5図 外部レコーダーの接続方法



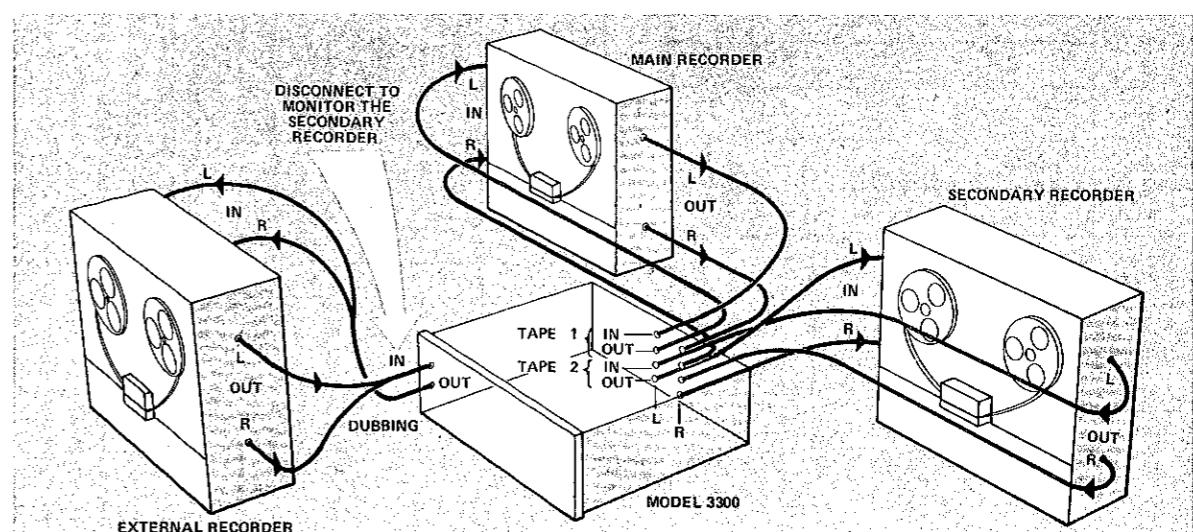
第6図 主レコーダー及び外部レコーダーの接続方法



第7図 主レコーダー及び副レコーダーの接続方法

最も簡単なシステムは、たった一台のレコーダーを使用することです。もしも、レコーダーがシステムの"永久"部分であるとすれば、7ページの第4図の通り、それをTAPE 1ジャックに接続します。もしも、レコーダーがシステムの"臨時"にすぎない場合は、第5図の通りDUBBINGジャックに接続する方がよいでしょう。いずれにせよ、單にレコーダーを録音モードにしさえすれば、プログラムソースから録音することができます。

録音しつつ、テープをモニターするには、正しくTAPE MONITORスイッチを押さねばなりません。TAPE 1はTAPE 1ジャック内のレコーダーに使用し、TAPE 2はDUBBINGジャック内のレコーダーに使用します。レコーダーの再生はモニターの場合と同じ方法で出来ます。但し、レコーダーは再生モードにして置きます。



第8図 3台のレコーダーの接続方法

二台のレコーダーを使用する場合は、8ページの第6図又は第7図のように接続します。即ち、"主"レコーダーをTAPE 1ジャックに、"副"レコーダーはTAPE 2ジャックに、"外部"レコーダーはDUBBINGジャックに接続します。所定のレコーダーを録音モードにセットしさえすれば、いずれか一方又は両方のレコーダーでプログラムソースを録音することができます。

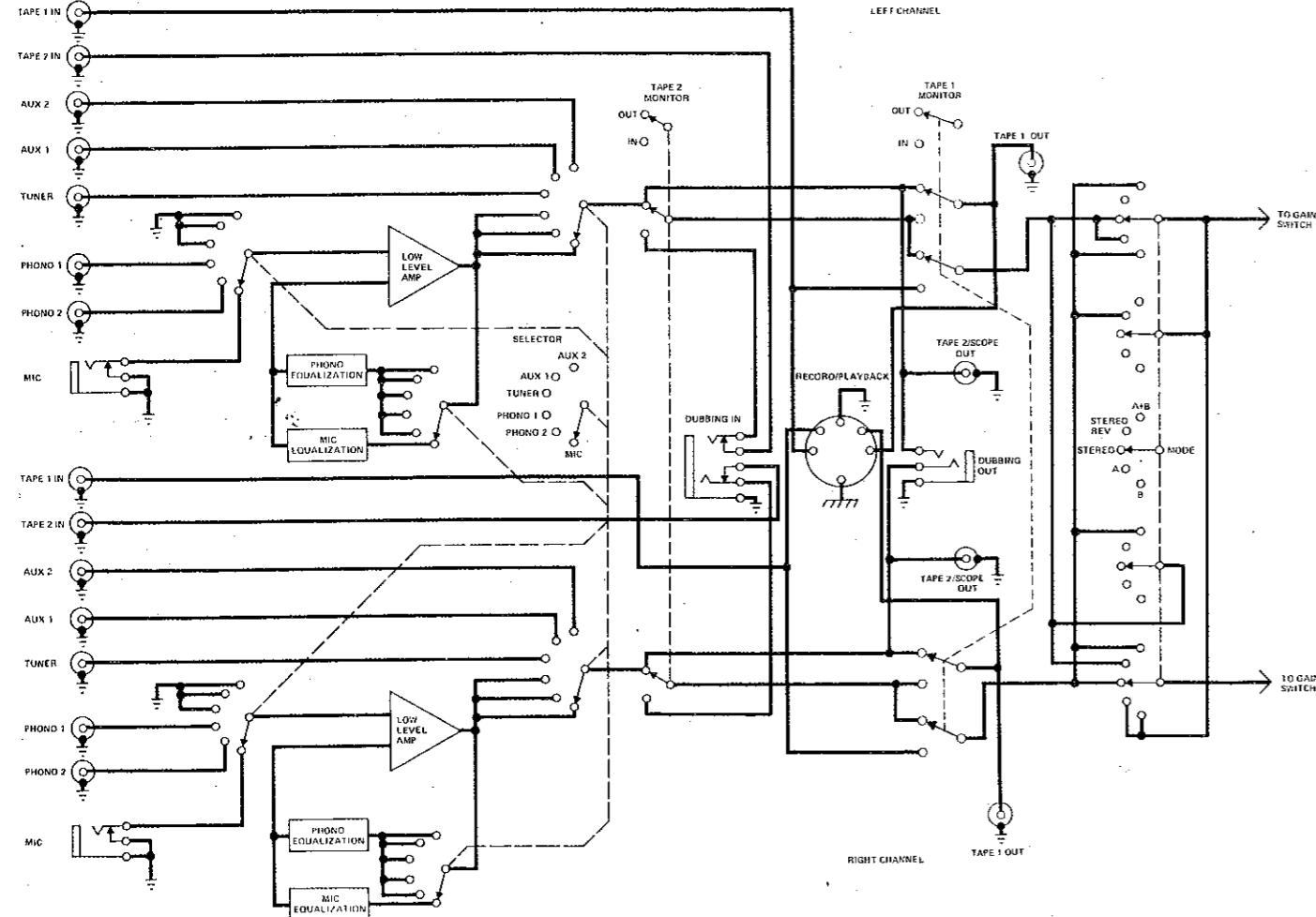
TAPE MONITORスイッチを押せば、いづれか一方のレコーダー〔但し、両方ではない〕をモニターすることができます。〔"主"レコーダーはTAPE 1、"副"又は、"外部"レコーダーはTAPE 2〕。両方のレコーダーでプログラムソースを録音する場合は、ご注意下さい。TAPE 1とTAPE 2両モニター スイッチを押すと"主"レコーダーは

プログラム ソースの替りに “副” 又は、“外部” レコーダーの出力を受け入れるので、この特徴があればこそ、“副” 又は、“外部” レコーダーから “主” レコーダーへと、テープからテープへ複製することができます。又は TAPE 1 と TAPE 2 両モニタースイッチを押せば、“副” 又は、“外部” レコーダーでプログラム ソースを録音し、しかもこのレコーダーの出力信号を “主” レコーダーで録音することができます。両スイッチを押すと、“主” レコーダーからの出力信号のみがシステムを通して再生されます。モデル3300は、同時に3台のレコーダーを使用する能力をもっています。中継方法は、8ページの第8図の通りですが、“主” レコーダーは TAPE 1 ジャックに接続し、“副” レ

コーダーは TAPE 2 ジャックに接続し、“外部” レコーダーは DUBBING ジャックに接続します。操作方法は基本的には、2台のレコーダーの場合と同じです。但し、

- 3台すべてのレコーダーは、同時にプログラム ソースを録音することができます。
- “副” レコーダーをモニターするには、DUBBING IN ジャックに挿し込んだプラグを取り外さねばなりません。
- “外部” レコーダーをモニターするには、フォノ プラグを再度 DUBBING IN ジャックの中に挿し込んで下さい。

第9図 ブロックダイヤグラム



## 第2部 技術的解説

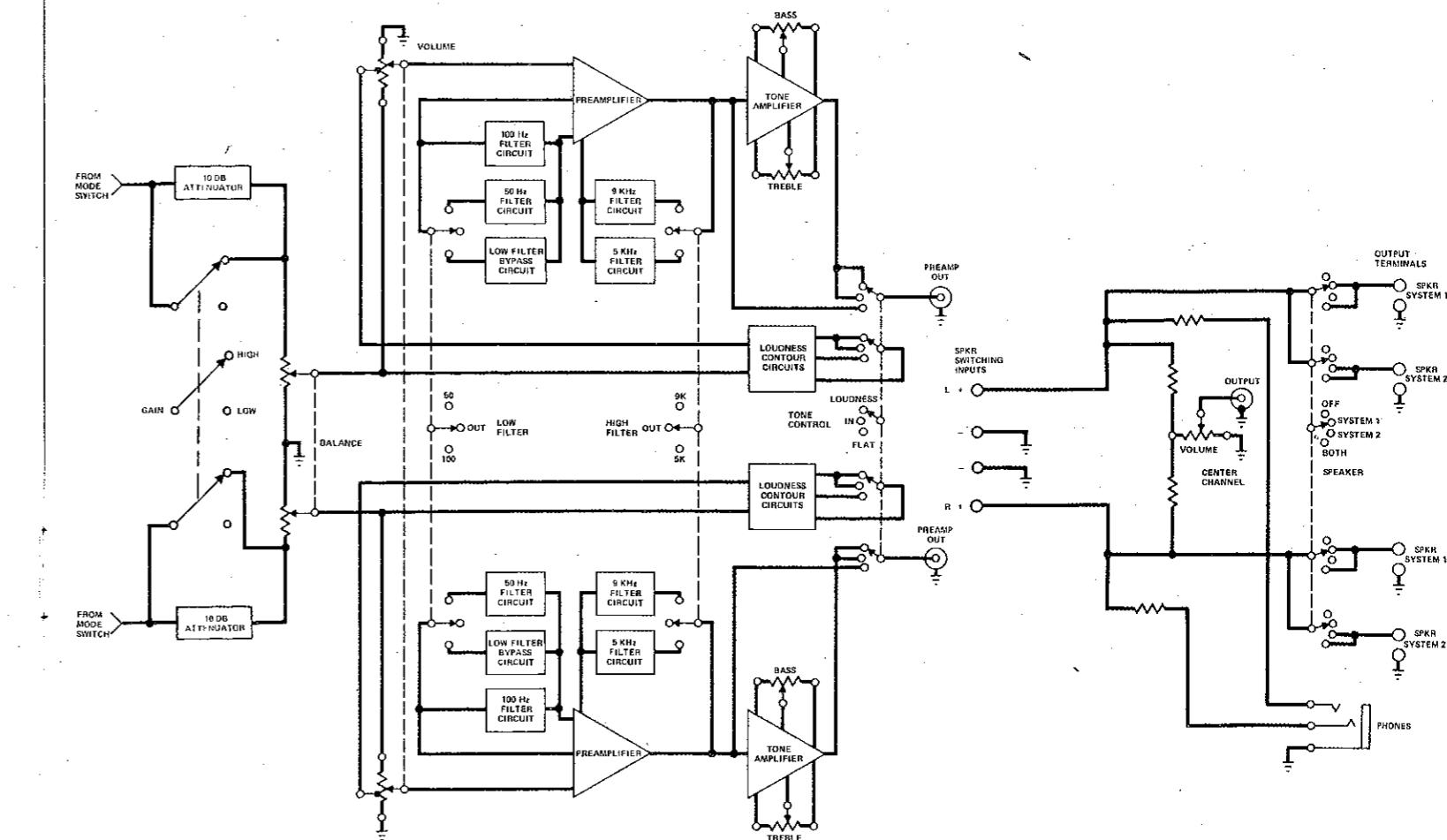
総説：第9図の ブロック ダイヤグラムは、モデル3300内の主要素子と信号中継を示したものです。左右両チャンネルは同時に処理されます。

ハイ、ロー レベル入力 [プログラムソース] は、SELECTOR スイッチにより選択され、TAPE MONITOR スイッチと TAPE OUT ジャック及 DUBBING OUT ジャックに伝えられます。TAPE MONITOR スイッチは、プログラム ソース又はレコーダー信号のいずれかを MODE スイッチに伝えます。MODE スイッチは L と R [ステ

レオ]、R と L [反転ステレオ]、L + R [モノ A B]、L のみ 又は、R のみのチャンネル信号を、モデル3300の左右のチャンネルに伝えます。

プリアンプとトーン コントロールは、PREAMP OUT ジャックを通して、外部パワーアンプに伝えるための信号を用意します。外部パワーアンプ出力は、モデル3300のSPKR SWITCHING INPUTS に接続され、この信号は PHONES ジャック、SPEAKER スイッチに伝えられて、更に結合ネットワークを通して、CENTER CHANNEL VOLUME コントロールと CENTER CHANNEL OUTPUT ジャックへと伝えられます。SPEAKER スイッチから信号は SPKR SYSTEM 1 と SPKR SYSTEM 2 の端子へと送られます。

第9図 ブロックダイヤグラム



## 機能

### SELECTOR スイッチ

6 ポジション 入力 SELECTOR スイッチ、9、10ページの〔第9図〕の機能は、TAPE MONITOR スイッチと テープ アウト ジャックに伝えるために 6 つの入力 [高レベル 3つ、低レベル 3つ] の一つを選ぶことです。3つの低レベル入力 [MIC、PHONO 1 及び PHONO 2] は、低レベルアンプにより、増幅され、所定のマイクネットワーク又は、RIAA ネットワークにより等化された後、TAPE MONITOR スイッチに伝えられます。

TAPE 1 及び TAPE 2 モニター スイッチ  
TAPE MONITOR スイッチの 機能は、MODE スイッチ [7 ページの第1表にリスト] に伝えるため、SELECTOR スイッチからのプログラムソース信号と テープ 入力 ジャックにおいて利用できる信号との間を選択することあります。

SWITCH POSITION	LEFT CHANNEL INPUT TO PREAMP CHANNEL:	RIGHT CHANNEL INPUT TO PREAMP CHANNEL:
R		L & R
L	L & R	
STEREO	L	R
REVERSE	R	L
L + R	L & R	L & R

第2表 モード スイッチ操作

### トーン アンプ

プリアンプの出力は、TONE CONTROL スイッチによりコントロールされます。FLATにセットされると、TONE CONTROL スイッチは、トーンアンプと トーン コントロールを通らず、プリアンプの出力を背面パネルの PRE-AMP OUT ジャックに伝えます。TONE CONTROL スイッチは IN にセットされると、トーン アンプの出力をPRE-AMP OUT ジャックに伝えます。トーンアンプと トーン コントロールは LOUDNESS にセットされると、回路内にとどまり、Fletcher-Munson ラウドネス曲線にほぼ等しくなります。オーディオに於ける補正は、VOLUME コントロール からのタップを使用しております。結合利得 トーン アンプの周波数レスポンスは、BASSとTREBLE トーン

### MODE スイッチ

MODE スイッチの 機能は 左右のチャンネル 入力信号をプリアンプの左右のチャンネル [11ページの第2表] に伝えることであり、MODE スイッチの出力はGAIN スイッチに伝えられます。

### GAIN スイッチ

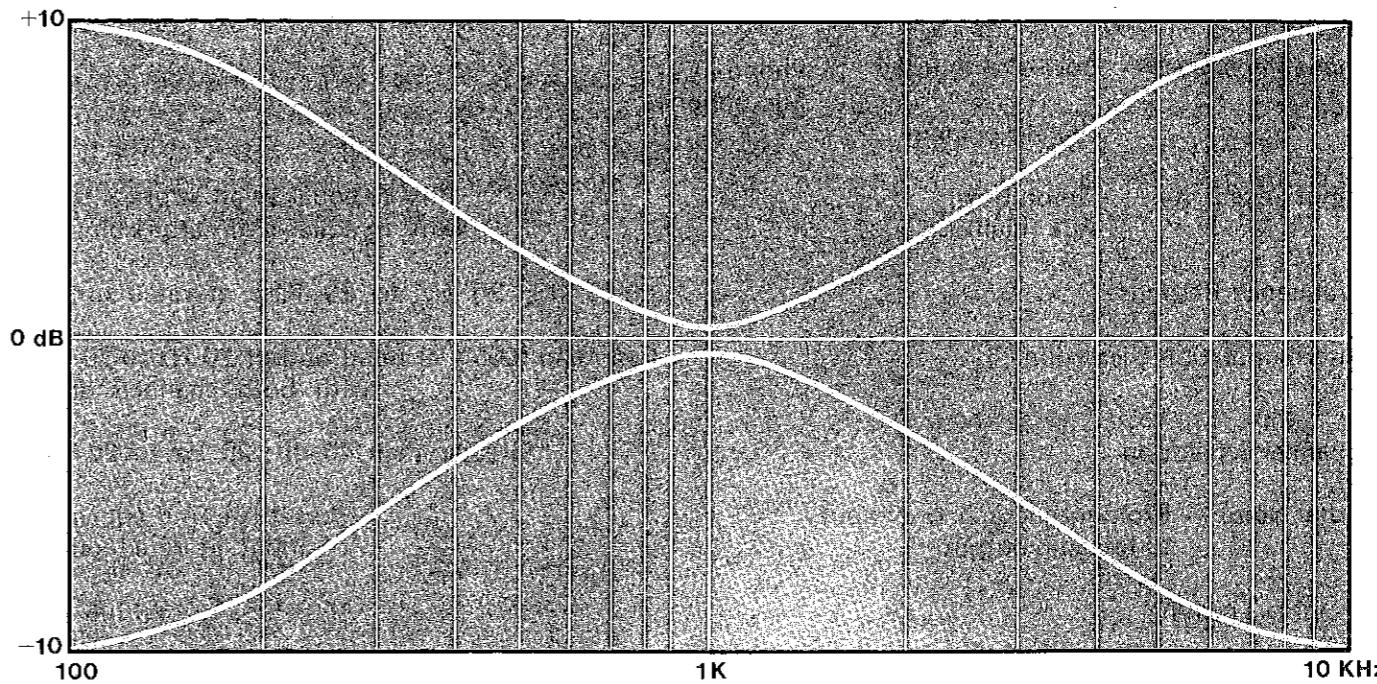
HIGH位置では、入力信号は直接 BALANCE コントロールに送られます。この信号は、LOWにセットされると、10dB減衰ネットワークを通して、BALANCE コントロールへと伝えられます。

BALANCE コントロール及び VOLUME コントロール GAIN スイッチからの 信号は、BALANCE コントロールと VOLUME コントロールとに相対的総合レベルになるよう調整されます。BALANCE コントロールは、全レンジ コントロールで、いづれかのチャンネルの減衰ができるようにしたものであります。VOLUME コントロールは、両チャンネルを同時に減衰し、2 dB内でトラッキングを維持します。VOLUME コントロールの出力はプリアンプへ伝えられます。

### SPEAKER スイッチ

SPEAKER スイッチは SPKR SWITCHING INPUTS 端子に加えられたオーディオ信号を

SYSTEM 1、SYSTEM 2、両方に中継するか、いずれも中継しない機能 [OFF] をもっています。PHONES ジャックにおいて利用できる信号は、SPEAKER スイッチ の影響は受けません。



第10図 トーンコントロール特性



第11図 ロー、ハイ フィルター特性

## 技術仕様

Gain - Phono (low level) to pre-amp output . . . . .	60 dB
Phono to recording output . . . . .	40 dB
High level to pre-amp output . . . . .	20 dB
Input Impedance - Low level input	47K
Phono . . . . .	47K
Microphone . . . . .	50K
High level input . . . . .	25K
Input Sensitivity - Phono (low) . . . . .	1mV to equal 1 volt at pre-amp out
Aux (high) . . . . .	100mV to equal 1 volt at pre-amp out
Frequency Response . . . . .	±0.25 dB, 20 Hz to 20 KHz at rated output.
Intermodulation Distortion . . . . .	Less than 0.05% at rated output 20 Hz to 20 KHz with both channels driven
Channel Separation . . . . .	Greater than 40 dB; 20 Hz to 20 KHz
Total Noise - From magnetic phono input . . . . .	Less than 1µV equivalent input at rated output to pre-amp output
Volume Tracking . . . . .	Within 2 dB
Output Level . . . . .	3V RMS
Operating Power Requirements* (Primary)	Nominal Voltage      Range      Power      Frequency      Fuse
	110 vac      100 to 120 vac      20 watts      50/60 Hz      1/2A
	220 vac      200 to 240 vac      20 watts      50/60 Hz      1/2A
Dimensions - Panel Width . . . . .	15-3/8 inches
Panel Height . . . . .	5-3/4 inches
Depth . . . . .	10-1/2 inches
Weight - Unit alone . . . . .	15 lbs
Packed for shipment . . . . .	20 lbs

\*特別一次巻線は、220V作動へ変換することができます。

仕様は予告なしに変更することがあります。

## 特別仕様による取付け

モデル3300 ステレオ コントロール コンソールを特別仕様のキャビネットの中に取付けるための型紙〔テレプレート〕が付いています。開口は、巾14½インチ、高さ5¼インチが必要です。モデル3300の前面パネルは、この型紙より巾が広いので、切口を体裁よくかくします。本機の底部から、プラスチック製の足を取り去り、開口を通してモデル3300を滑り込ませます。キャビネットの背面横位置に充分な支えをおき、本機の背面と接触させます。4個の、

頭の楕円形な木ねじ〔付属キット封筒内に付いている〕を用いて前面パネルを所定の場所に固定して下さい。

注：前面パネルの隅の孔をドリルのガイドに使用しないこと。ドリルがスリップするとパネルの外観を損うことがあります。

注意事項：モデル3300とキャビネット表面との間に充分なスペースをとり、換気を計って下さい。

少くとも完全なシステムが取付けられ、点検が終る迄は、CENTER CHANNEL VOLUME コントロールと GAIN スイッチを調整するために容易に手が届くようにしておく方が便利です。

## アフターサービス メモ

モデル3300 ステレオ コントロール コンソールは、完全なソリッドステートなので、部品の取替は全く不要な筈です。もしも、パイロットランプが切れたならば、貴方のサービスマンに取り替えてもらうか、或は貴方がシャシーにリベット付けになっているソケット ブラケットの中のパイロットランプを交換して下さい。このランプは、金属反射器をまとっているので、この反射器を捨てないよう注意して下さい。

### ヒューズ

モデル3300は、½アンペア ヒューズで保護されています。このヒューズがとんだ時は必ず同型同定格のヒューズと取替えて下さい。高い定格のヒューズと取替えると本機を保護しないばかりか、品質保証書が無効になります。

### つまみ

前面パネルの円形つまみは、Allen頭スクリューにより、ジャフトに保持されています。付属キット封筒には、Allen型レンチが同封されています。これはつまみを取り外したり締めたりするのに使用するためで

す。各レバーツマミは、差し込み式により固定されています。

### 掃除

貴方の モデル3300 ステレオ コントロール コンソールは大変長持ちのする仕上げになっています。前面パネルとつまみは柔かい布、又は木綿の布に、弱い中性洗剤の溶液をつけて掃除するのがふさわしく、クレンザーや強力な研磨性クリーナーは使用しないで下さい。

### 修理

モデル3300 ステレオ コントロールの修理ができるのは、最も有能な有資格のサービス技術者に限られています。マランツ社とその工場で訓練を受けた保証所係員は、この精密機械の修理と較正に要する知識と特別な測定器をもっています。

トラブルの際は、動作の異常な症状の記事と共に、貴方の機器の MODEL NO.を、マランツ・ファースト、サービス部にお知らせ下さい。

Marantz Far East Inc.  
東京都目黒区青葉台2-10-34 TEL(03)464-9181(代)  
大阪営業所 大阪市西区鞠本町4-119 奥内阿波座  
駅前ビル511号 TEL06(448)7467(代)